報　　告　　書

安曇野市交流学習センター整備に向けて

平成 18 年 11 月

安曇野市交流学習センター施設検討委員会

安曇野市長
　平林　伊三郎　殿

安曇野市教育委員会
　教育長　望月　映洲　殿

　平成 18 年 2 月 28 日に安曇野市教育委員会から委員の委嘱を受け、安曇野市交流学習センター施設検討委員会を組織し、安曇野市交流学習センターのあり方及び建設について調査、研究してまいりました。これまでの検討結果をここに報告書としてまとめましたので、提出いたします。

平成 18 年 11 月 16 日

安曇野市交流学習センター施設検討委員会

会　長	益子　光麿
副会長	草深　博視
委　員	丸山　隆雄
委　員	中島　博昭
委　員	細野　脩一
委　員	松尾　兼幸
委　員	中田　富子
委　員	山田　安子
委　員	藤原　房雄
委　員	関　　京子
委　員	巻山　由子
委　員	中嶋　　忍
委　員	細萱　由紀子
委　員	小口　正敏
委　員	赤沼　章子
委　員	曽根原　正一
委　員	三枝　由美
委　員	松田　元子
委　員	細川　博水
委　員	松枝　　功

目　次

はじめに
第１章　現状認識
　１．安曇野市が旧３町村から継承した計画の内容
　　(1) 各交流学習センター建設計画
　　(2) 各交流学習センター建設計画の概要
　２．安曇野市の図書館の現状と問題点
　　(1) 長野県内他市の図書館との比較
　　(2) 安曇野市内図書館の現状
　　(3) 安曇野市内図書館の問題点
　　(4) 移動図書館サービス等について
　３．市内公共施設の現状と問題点
　　(1) 市内公共施設の現状
　　(2) 市内公共施設の問題点
第２章　提言
　１．安曇野市がめざすべき図書館整備計画の全体像
　　(1) 考え方の根拠
　　(2) 基本的な考え方
　　(3) 図書館本館と分館の基本方針と重点収集資料について
　　(4) 市内図書館の本館と分館の配置について
　　(5) 図書館に付帯する機能の整備について
　２．交流学習センターとしての複合機能のありかた
　　(1) 複合の是非
　　(2) 豊科交流学習センターへの美術館補完機能の設置
　　(3) 穂高交流学習センターへの地域学習館の設置
　　(4) 三郷交流学習センターへの児童館の設置
　　(5) 各交流学習センターへの多目的ホールの整備
　　(6) ユニバーサルデザインの考え方を
　　(7) 交流学習センターのソフト面の充実を
　３.各地域の交流学習センターのあるべき姿
　　(1) 豊科交流学習センター
　　(2) 穂高交流学習センター
　　(3) 三郷交流学習センター
　　(4) 堀金交流学習センター
　　(5) 明科交流学習センター
付属資料
　１．安曇野市所蔵の主な美術工芸資料
　２．安曇野市ゆかりの人物
　３．安曇野市交流学習センター施設検討委員会設置要綱
　４．安曇野市交流学習センター施設検討委員会名簿
　５．安曇野市交流学習センター施設検討委員会での検討経過

はじめに

この報告書は、安曇野市における図書館を核とした複合型生涯学習施設（以下「交流学習センター」という。）の望ましいあり方について、安曇野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）からの課題提起に基づき、平成 18 年 2 月から同年 11 月にかけて 17 回にわたり、安曇野市交流学習センター施設検討委員会（以下「検討委員会」という。）が検討した結果をまとめたものである。

教育委員会からの課題提起は、次のとおりである。

合併により安曇野市は、旧豊科町、旧穂高町、旧三郷村から、それぞれが作成した交流学習センター建設計画を基本的に継承しているが、このいずれの計画とも以下 3 点の調整すべき問題点があると思われるので、検討いただき、今後の施設のあるべき姿、整備方針について提言いただきたい。

① 3 施設とも「安曇野市」の視点での位置づけがなされていない。

② 機能的に不要と思われる施設、設備が計画されている。

③ 必要な機能であっても、その規模等について再検討が必要と思われる。

なお、交流学習センターのあるべき姿の検討については、一から施設計画を練り上げる様態のものではなく、理想とする姿を想定しつつ、市が継承した現計画について「原案の評価」「理念の検証」「問題の掘り起こし」「計画の修正」などの流れを通じて、適正な計画に練り直す作業として扱われたい。

検討委員会は、上記の提起された課題について「安曇野市」という広い視点に立脚し、まず安曇野市や近隣の自治体の施設の現状、市内公共施設の状況等を把握するための視察や関係者等の意見、豊科と穂高の 2 会場で開催した公聴会での住民からの意見も参考にしながら検討会議を重ね、それぞれの計画を検証、討議した。

特に、新生安曇野市にとって真に必要な施設は何かということを強く意識し、地域を越えた議論を行い、市民に広く共感を得られる計画となるように努めてきた。

第１章　現状認識

1．安曇野市が旧３町村から継承した計画の内容

安曇野市が旧３町村から継承した図書館を核とした交流学習センターの建設計画は、下記のとおりである。

豊科の交流センターの計画数値は「基本設計」の成果の値を、穂高地域交流センターおよび三郷生涯学習センターについては「プロポーザル提案」における値を採用した。

(1) 各交流学習センターの建設計画

（平成 17 年 10 月 1 日現在）

地区	有する機能	建設予定地	用地		建築概要	建設予定額	見込まれる特定財源
			面　積	買収状況	延床面積	（実施計画要望額）	
豊科	図書館 交流センター（ホール主体） ギャラリー（美術館補完機能）	豊科近代美術館南（現芝生）に美術館に接続して	―	従前より市有地	地上 2 階、地下 1 階 3,679 ㎡	本体 1,105,462 千円 付帯 148,113 千円 合計 1,253,575 千円	基金　320,049 千円 交付金 <事業費の 40%以内> 最大 500,000 千円 特例債　未定
穂高	図書館 交流センター（ホール主体） 顕彰館	ワシントングラウンド跡地	14,551 ㎡	買収済み	平屋造 4,434 ㎡	本体 1,593,500 千円 付帯 115,438 千円 合計 1,708,938 千円	基金　342,590 千円 交付金 <事業費の 40%以内> 最大 680,000 千円 特例債　未定
三郷	図書館 交流センター （ホール主体） 児童館	三郷中学校北側	4,377 ㎡	土地開発公社で確保済み	地上 2 階 3,859 ㎡	本体 1,476,550 千円 付帯 552,580 千円 （駐車場等周辺整備） 合計 2,029,130 千円	基金　300,905 千円 特例債　未定
合計						4,991,643 千円 備品、書籍購入等に相当の経費上乗せが必要と思われる。	基金　963,544 千円 交付金 最大 1,180,000 千円 特例債　未定

(2) 各交流学習センター建設計画の概要

① 図書館部分の概要

	図書館部分面積	蔵書冊数			図書館部分の主な機能
		開架	閉架	合計	
豊科	2,108 ㎡	60,000	95,760	155,760	・開架・閲覧スペース ・閉架書庫 ・対面朗読室 ・自習室 ・くつろぎコーナー ・館長室兼応接室 ・スタッフラウンジ兼湯沸室 ・移動図書館車書庫・作業室 ・移動図書館車庫・美術品搬入口
穂高	1,948 ㎡	120,000	61,000	181,000	・開架・閲覧スペース ・郷土資料室 ・学習室 ・創作室 ・対面朗読室・録音室 ・管理事務室 ・閉架書庫 ・移動図書館・MB 書庫
三郷	2,000 ㎡	60,000	40,000	100,000	・開架・閲覧スペース ・郷土資料室・調査閲覧室 ・学習室 ・授乳室 ・事務室・作業室 ・閉架書庫 ・移動図書館ガレージ
合計		240,000	196,760	436,760	

② 複合施設部分の概要

地域	主な機能		規模	主な使用目的
豊科	図書館・美術館付属機能	大会議室(AV ホール)	最大 254 席 ロールバック席 198 席移動 イス席 56 席	200 人を上回る規模の上映会(熊井啓等)、コンサート、講演会等
		市民ギャラリー 多目的交流施設（可動パネル式）	100 人規模	展示、会議、学習
		小会議室	20 人規模	会議、学習
		喫茶(談話)兼展望くつろぎコーナー フリーギャラリー		交流、休憩、ロビーコンサート、展示
		貴重品収蔵庫		美術品の保管
穂高	交流広場機能	交流ホール	ロールバック席 204 席	生涯学習・芸術文化活動成果発表、コンサート、講演会等
		交流ギャラリー・ふるさとショップ	363.8 ㎡	生涯学習・芸術文化活動成果発表、イベント等 顕彰館グッズや地域特産品等の提供
		インフォメーションコーナー	22.32 ㎡	安曇野の全体像や自然、歴史、文化、産業等の概要紹介
		カフェ・厨房	26.10 ㎡	休息、郷土の味覚の提供
		ボランティア室	32.40 ㎡	ボランティア活動の支援・促進
		休憩・談話スペース、乳幼児室、救護室		
	顕彰館機能	常設展示室(顕彰室、美術展示室)	340.20 ㎡	郷土の先人に関する展示・情報発信
		学習室、研究・事務室	131.22 ㎡	郷土の先人に関する調査・研究、教育普及
		収蔵庫	187.38 ㎡	郷土の先人の資料・作品の収集・保管

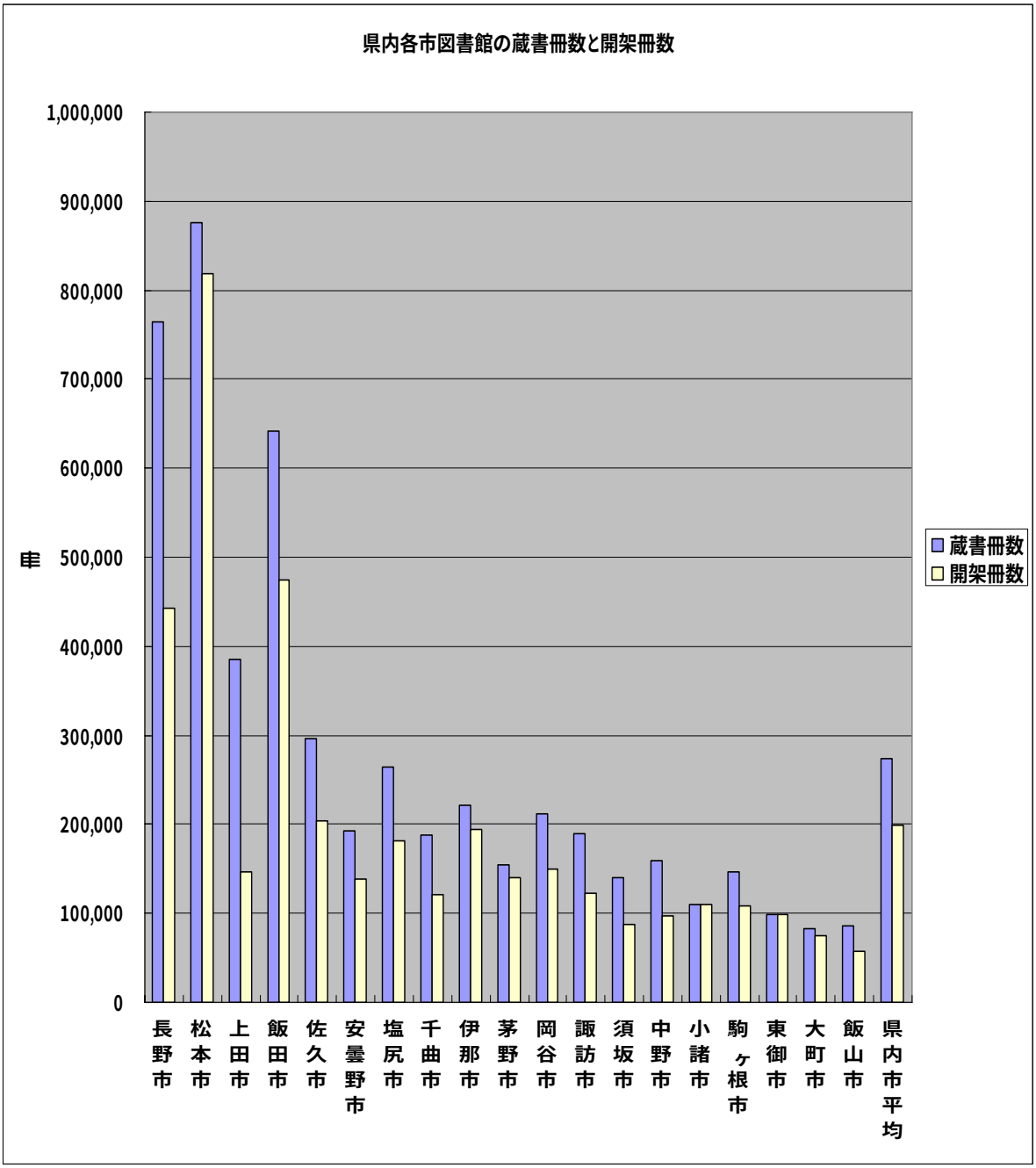
三郷	児童館的施設機能	プレイルーム	197.00㎡	縄跳び、ボール遊び等
		創作活動室	74.00㎡	工作等
		育児・おもちゃ室	66.96㎡	
		児童クラブ室	55.40㎡	
		調理交流室	47.36㎡	
		相談室・静養室	20.97㎡	
		事務室	28.60㎡	
	生涯学習施設機能	多目的ホール	最大 439席 ロールバック席 360席移動 イス席 79席	生涯学習・発表の場、コンサート、講演会、ビデオシアター、児童等のプレイルーム
		練習室	29.25㎡	
		ピアノ庫		
		学習室 事務・作業室 ギャラリー 喫茶コーナー		

2．安曇野市の図書館の現状と問題点

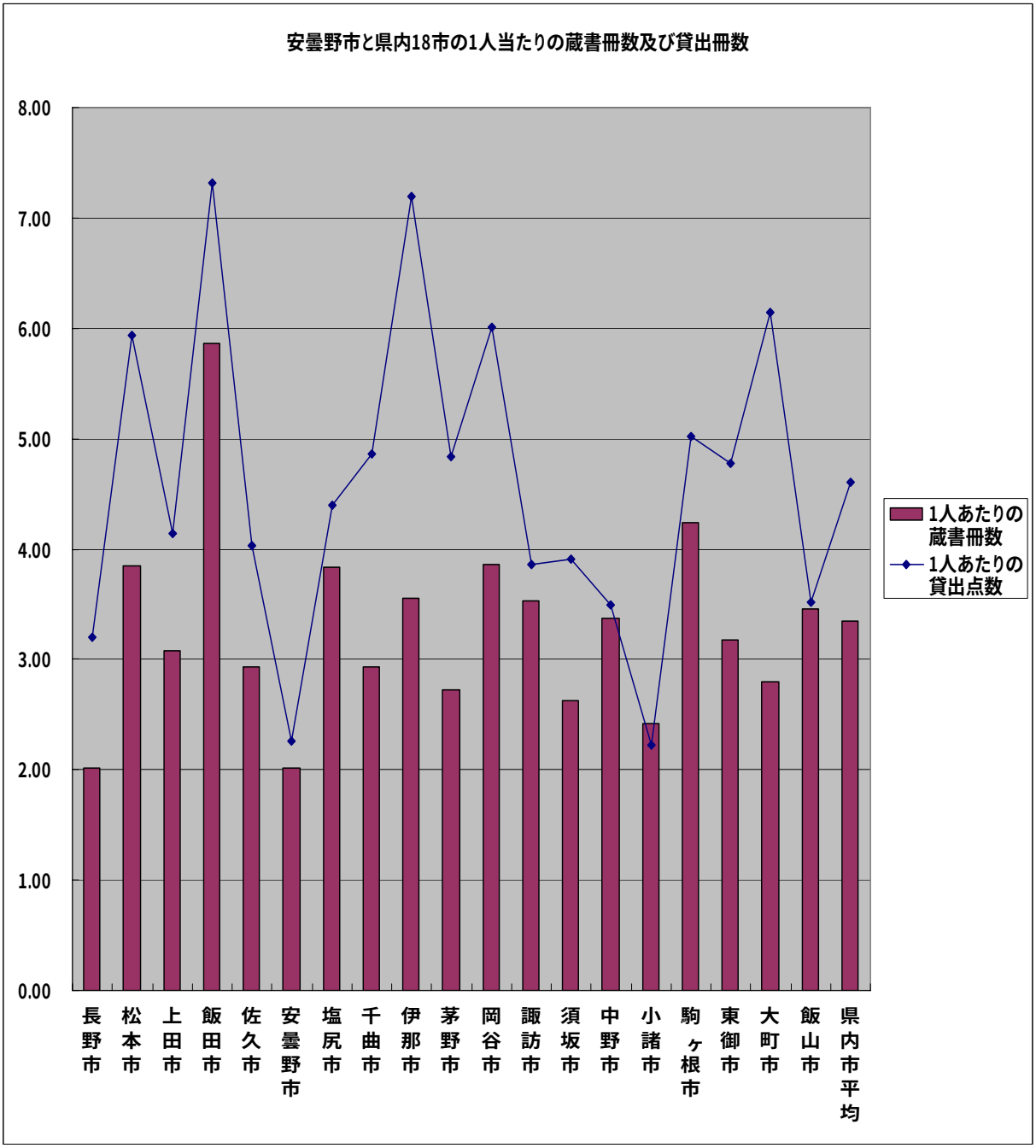
(1) 長野県内他市の図書館との比較

安曇野市の図書館サービスの現状を把握するため、県内他市と安曇野市の蔵書冊数と開架冊数、一人当たりの蔵書冊数と貸出冊数、利用登録率について長野県図書館協議会作成の資料により比較した。

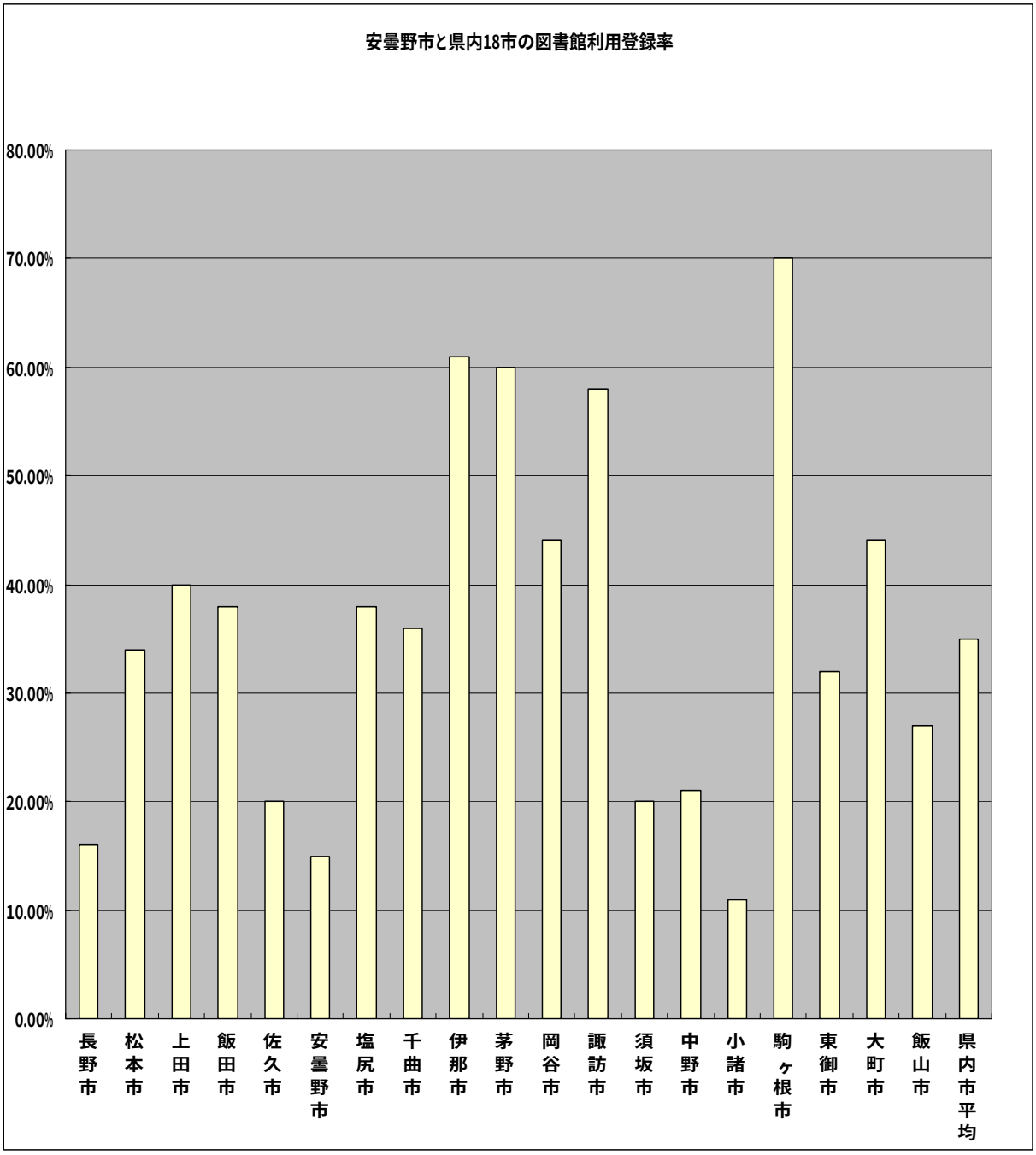
その内容は以下のとおりである。



参考資料　「長野県図書館概況」長野県図書館協議会、平成 17 年発行



参考資料　「長野県図書館概況」長野県図書館協議会、平成 17 年発行



参考資料　「長野県図書館概況」長野県図書館協議会、平成 17 年発行

以上の資料からも安曇野市は、県内で 6 番目に人口規模の大きい自治体ではあるが、5 図書館の合計の蔵書冊数と開架冊数、一人当たりの蔵書冊数と貸出冊数、利用登録率のいずれの項目も、県内 19 市の平均値を下回っており、他市と比較して充実した図書館サービスを提供しているとは言いがたい現状である。

(2) 安曇野市内図書館の現状

安曇野市発足前は、図書室という公民館の付属施設的な位置付けであった三郷、堀金の２館についても、合併後は「安曇野市図書館条例」によって、豊科、穂高、明科の図書館と同様に「図書館法上の公共図書館」の位置付けとなった。

以下に安曇野市の５図書館の蔵書数等の現状を示した。

安曇野市の図書館の現状　(H18.3.31 現在)

	面積(㎡)	蔵書冊数			AV資料点数	購読雑誌数	購読新聞数	登録者数	貸出点数
		内開架	内閉架	合計					
豊科	205	28,452	32,320	60,772	198	15	8	1,194	32,110
穂高	716	47,241	1,018	48,259	1,116	23	6	6,955	89,938
三郷	105	26,375	0	26,375	629	14	0	2,311	35,472
堀金	227	20,536	0	20,536	99	5	0	1,418	13,061
明科	818	35,359	1,483	36,842	409	70	9	2,463	46,372
合計	2,071	157,963	34,821	192,784	2,451	127	23	14,341	216,953

なお、平成 18 年 3 月より市内の図書館情報システムが統合され、ネットワーク化されたことにより、他館の蔵書検索が可能となり、５図書館間の蔵書の行き来が頻繁になっている。

(3) 安曇野市内図書館の問題点

市内5館の図書館の視察等を行った結果、現状の問題点は次のとおりである。

【4館はいずれも狭小】

明科図書館を除く4館は、いずれも図書館と言うよりも、公民館図書室程度の規模であるため、窮屈で使いづらい。豊科、三郷、堀金の図書館は、車椅子や乳母車も書架の間を通れない、または通りにくい状態である。豊科の図書館は、開架図書が少なく閉架図書が多い。三郷の図書館は、狭くて本が二重に並んでいる状態が見られるため、よく考えて労力を惜しまず入れ替えを行うなどの対応は早急に行うべきである。豊科、穂高の図書館は、開架書架が全体的にみな高いため、本を選びにくく館内も暗くなってしまっている。

【会議室や研修室等、図書館に必要な施設が整備されていない】

現在は館内に憩う場所がなく、交流の場にはなりにくい状況。いろいろな年代の人が気軽に訪れてくつろげる雰囲気ではない。図書館は、広く「知」、「文化」の拠点としての役割がある。地域の拠点として活動できる会議室・研修室等も必要。

またIT、視聴覚関係設備が整っていないため、若い人達にとって魅力が無い場所となっている。

【市民が求める新鮮で多様な資料、情報が収集・提供されていない】

市民が図書館で学び、必要な情報を得て、自分を高めていくことが出来るための充分な資料が整備されていない。またIT時代にふさわしい新しいメディアに対応し、CD、DVD、インターネット等々の積極的な活用も今後の課題である。

さらに安曇野市内で発行された様々な刊行物や市の行政刊行物などは、安曇野市の図書館でなければみることが出来ない場合も多い。これらを積極的に収集していくことは安曇野市の図書館の重要な責務である。

【子ども、お年寄り、障害のある人などへのサービスが不十分】

子ども、お年寄り、障害のある人、外国の人などへのサービスが充分に行われていない状況である。

図書館は様々な世代の人々が集い、交流する場と機会を提供する必要がある。少子化、高齢化社会、若者の活字離れが進んでいる昨今、図書館の果たすべき責務をしっかりと認識したうえで図書館サービスの充実を図るべきである。

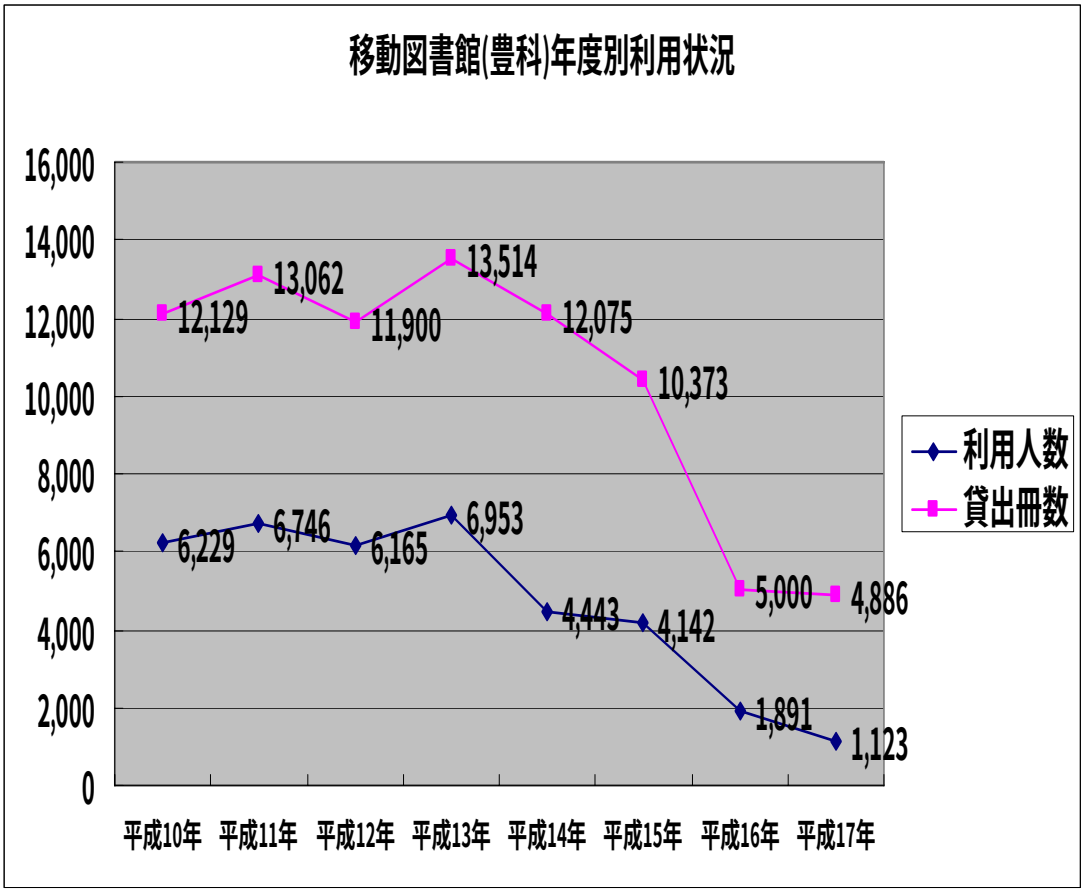
(4) 移動図書館サービス等について

移動図書館事業の経過及び実施状況については、以下のとおりである。

①豊科図書館

図書館から離れた地区(1.5㎞)の住民に読書の機会を提供することを目的に、平成 8 年 10 月開始。

現在、搭載冊数約 1,000 冊。巡回地区 17 箇所(1 箇所の停車時間 20 分間) 。巡回間隔日数 14 日。



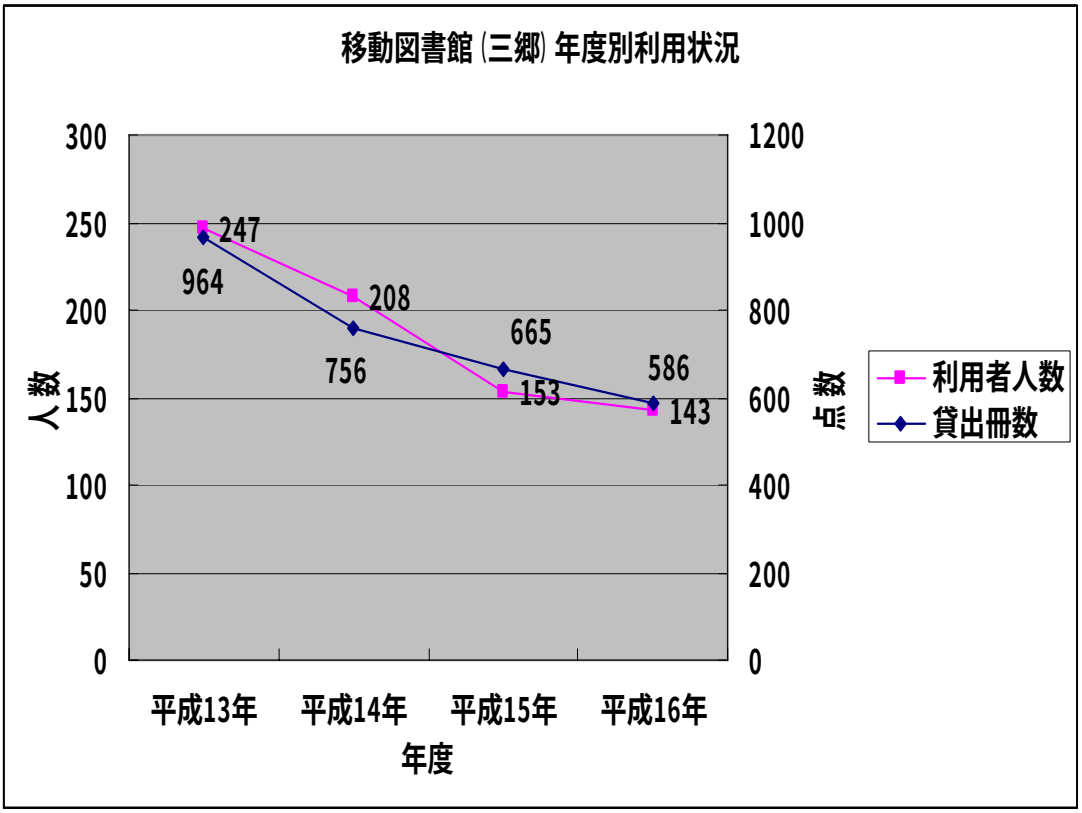
②穂高図書館

穂高の 3 つの地区公民館を拠点として子ども文庫を開設。各子ども文庫への配本サービスや学校、児童館に団体貸出を実施。

③三郷図書館

図書館から離れた地区の住民に読書の機会を提供することを目的に、昭和 58 年 4 月開始。

現在、搭載冊数約 420 冊。巡回地区 3 箇所(1 箇所の停車時間 180 分間)。巡回間隔日数／30 日。



3．市内公共施設の現状と問題点

(1) 市内公共施設の現状

国、地方の財政状況の悪化が懸念されるなか、地方自治体はより一層財政的な自立を目指していくべきことはいうまでも無い。大規模な支出をできる限り控え、将来の市民に過大な財政負担を残さないためにも、旧3町村の建設計画を評価する前に、各総合支所の空き部屋等、合併によって使わなくなった施設、今後不用となることが予想される建物もしくはその一部を、整備すべき交流学習センターとして使用できないかということについて充分検討すべきであると考え、下記の施設を視察した。

●豊科地域

施設名	完成年（和暦）	構造	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
総合支所(本庁舎)	1958年(S33)	RC２階・一部木造	7,090.80	3,689.50
公民館等	1967年(S42)	RC２階	5,221.80	2,585.90
郷土博物館	1979年(S54)	RC２階	2,483.00	1,059.51
近代美術館	1990年(H2)	RC２階	33,307.00	3,543.60

●穂高地域

施設名	完成年（和暦）	構造	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
総合支所(別棟東庁舎・会議室含)	1972年(S47)	RC4階	5522.60	5160.46
旧保健センター	1983年(S58)	RC2階		
公民館	1978年(S53)	鉄骨・RC瓦葺2階(一部3階)	28,731.17	3,329.30
郷土資料館	1972年(S47)	RC２階	4,464.44	478.47
鐘の鳴る丘集会所	1980年(S55)	木造２階	4,731.00	443.86

●三郷地域

施設名	完成年（和暦）	構造	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
総合支所	1981 年（S56）	RC3 階	7,779.00	4,317.00
公民館	1981 年（S56）	RC2 階		2,469.00
文化公園	1992 年(H4)	RC	43,617.00（公園）	4,095.00
貞享義民記念館	1992 年(H4)	木造・RC2 階	4,448.00（公園）	1,032.00

●堀金地域

施設名	完成年（和暦）	構造	敷地面積（㎡）	延床面積（㎡）
総合支所	2002 年(H14)	RC 及び一部 SRC3 階	6,313.73	4,317.00
公民館	1979 年(S54)	RC2 階	4,678.00	1,906.30
歴史民俗資料館	1979 年(S54)	鉄骨 ILC2 階		656.50
臼井吉見記念館	1991 年(H3)	木造瓦葺(土蔵造)	603.00	139.12

(2) 市内公共施設の問題点

【各総合支所】

すでに交流学習センターが整備されている明科以外の総合支所を視察した。いずれの総合支所とも空いた部屋が多く、主として会議室として使用されている。

豊科総合支所は、老朽化が進んでおり、構造的にも頑強さに欠ける印象を持った。度重なる建て増しで整備された庁舎をつなぐ狭い通路が迷路のように配置され、また、段差が多く、エレベータも設置されておらず、今後、交流学習センターとして使用することは極めて難しいと考えた。

なお、豊科総合支所の玄関横の階段には、一人乗りの昇降機が設置されているが、①ひとりで乗り降りできない、②運転中はボタンを押し続けなければないない、③昇降中、床からかなり高くなる箇所があり不安感がある、④シートベルトの長さの調節が出来ず安心感が無い、などの問題点があるように感じた。

穂高総合支所は、外観は頑強そうに見えるが、内部は老朽化が進んでいると感じ、また通路や部屋が暗く、手狭な印象を受けた。また、三階建てにもかかわらずエレベータも設置されておらず、今後、交流学習センターとして使用することは難しいと考えた。

三郷総合支所は、タイル張りの半円形の外観の雰囲気も良く、内部についても、一階、二階の事務スペースには豊科や穂高の支所にない明るさと広さを感じ、エレベータも設置されていることなどが良い印象として残った。ただ、細部を見ると、やはり施設的には傷みがすすんでいると感じられた。

また、豊科、穂高、三郷の各総合支所の建物は、建設年度的に、現在の耐震基準を満たしていないとの説明があり、市民が安心して集える交流学習センターとして使用することについては、問題があると考えた。

堀金総合支所は、最近建設された建物であり、耐震強度、明るさ、広さ、設備なども十分であり、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、きちんと使用者に配慮された施設であると感じられた。この建物については、新市庁舎の建設等に伴い相当の空きスペースがでてくれば、交流学習センターとして後利用することには、問題ないと思える。

【各地域公民館】

各公民館は、地域における市民の生涯学習や活動の拠点として幅広く利用されている。将来、新市庁舎等の建設が行われても、地域の公民館は引き続き地域活動の拠点のひとつとして、存続すべきものであり、交流学習センター等への転用

はすべきではないと考える。

【穂高の旧保健センター】

穂高の旧保健センターは、現在穂高総合支所の会議室となっているが、頻繁に利用されている様子がなく、今後有効活用を考えるべき施設であると捉えた。ただ、構造的には頑強な感じがせず、また、建物の大きさや周辺状況を考慮すると、市民が気軽に集える交流学習センターとして活用することは難しいと考える。

【豊科郷土博物館及び各資料館】

各資料館は、それぞれに工夫して資料展示しているが、埃をかぶっている状態もあり、あまり芳しい状況ではないと感じた。一つの施設への統合、目的を明確にした学芸員や研究者中心の展示の見直し等も必要ではないかと考える。交流学習センターとしての利用は無理と感じた。

【豊科近代美術館】

美術館のギャラリーが小部屋に分かれ、大きな作品を鑑賞しやすい状況ではなく、アトリエなど市民が体験活動を行えるスペースがない。入り口戸やエレベータについては、車椅子での使用について配慮されているとは言いにくい状況がある。美術館機能をより充実すべきと考える。

【貞享義民記念館】

平成４年に完成した比較的新しい顕彰施設であり、エントランスホールや展示スペース等を活用した地域の生涯学習の発表の場としての利用には適していると考える。エレベータや入り口のスロープなどについては、車椅子での使用に配慮が十分であるとは言えない状況がある。

立地的に郊外の単独施設であり、構造上は頑強な建物に見えるが、その規模からしても交流学習センターとして活用できる建物ではないと考える。

【臼井吉見文学館】

小説『安曇野』で安曇野を一躍有名にした小説家『臼井吉見』の遺品の数々を展示した文学館。観光や地域の生涯学習の場として利用されているが、規模的には民家の土蔵程度の建物である。

【鐘の鳴る丘集会所など】

その他、穂高の「鐘の鳴る丘集会所」などもを踏査したが、いずれもが老朽化の進行、構造上の不安、施設規模の狭小、立地的な問題等を抱え、建物自体もしくはその一部を市民が集う交流学習センターに活用することは、ほぼ不可能であると判断した。

第２章　提　　言

１．安曇野市がめざすべき図書館整備計画の全体像

(1) 考え方の根拠

日本図書館協会図書館政策特別委員会は、全国の市町村（政令指定都市及び特別区を除く）の公立図書館のうち、人口一人当たりの「資料貸出」点数の多い上位 10%の図書館の平均値を算出し、それを人口段階ごとの基準値を「公立図書館の任務と目標」(1989 年 1 月　確定公表　2004 年 3 月　改訂)で「図書館システム整備のための数値基準」として提案している。

この「基準値」を安曇野市にあてはめ、算出した数値は下記のとおりである。

「公立図書館の任務と目標」による公立図書館の設置と運営に関する数値基準

日本図書館協会図書館政策特別委員会

1989 年 1 月　確定公表　2004 年 3 月　改訂

安曇野市(人口 95,830 人)の場合

	延床面積	蔵書冊数	開架冊数	資料費	増加冊数	職員数
算出値	4,535 ㎡	436,117 冊	232,531 冊	54,460,580 円	29,505 冊	40 人

システムとしての図書館

ここで掲げている数値は自治体における図書館システム全体を対象としたものである。自治体の人口規模や面積，人口密度等に応じて地域館や移動図書館を設置運営し，図書館システムとしての整備を進めていくことが必要である。

この算出値等を参考として討議、検討した。安曇野市がめざすべき図書館整備計画の全体像については、次のとおりとするべきであると考える。

(2) 基本的な考え方

【中央図書館(本館)と分館の整備と機能、役割の分担】

図書館の蔵書を大きく 2 つに分けると、残すべき史資料的な図書(貴重書、研究書、全集等)と、多くの人が広く利用できる身近な図書とがある。残すべき史資料的な図書は、中央図書館(本館)一箇所にまとめて管理し、広く利用できる身近な図書は、それぞれの分館に配置することなど、図書館システムの効果的な集中、分担をし、無駄のない利用者サービスを目指す必要がある。

網羅的に図書等資料を収集し、市内の図書館システム全体をバックアップし統括する本館と、地域住民へのきめ細かなサービスを目指す分館といったかたちで、本館と分館をそれぞれ整備する必要がある。

【図書館は市民誰でもが支障なく、心地よく利用できる施設であるべき】

図書館は誰もが集まれるような施設でなければならない。そして思いやりの心の育成ができる、“ 全ての人に優しい施設 ”である必要がある。また市民にとって図書館は身近な存在であることが必要。気持ちが落ち着き、心が癒され、文化の薫りのする「来るだけで何か知的な気分になれる」空間であるべきである。書架以外にリラクゼーションスペースや、カフェなど図書館と融合した空間も必要である。

【図書館スタッフの質と量の向上】

施設をバリアフリーにするということだけではなく、その施設に携わる人たちの意識を変えることでバリアを解消することができる。現在の図書館の機能面の話で、お年寄りや障害のある人にとってはいろいろ不自由なところがあるため、職員の人達にお願いしなければならないことが沢山ある。その場合の対応策や、障害の理解などが必要だが、その場合に本館だけが対応するのではなく、一定の意識、技術面を全市で備えていく必要がある。

働いているスタッフの図書館を維持していく熱心さも、図書館のレベルを上げる大きな要素である。図書館スタッフのスキルアップのための研修等に力を注ぐべきである。

図書館職員の人数は、安曇野市規模だと 40 人位必要と考えられる。現在 15 人程度ということで、今後適切な事業人員配置も検討すべきである。また館長の選任をどうするかということも重要な点である。

(3) 図書館本館と分館の基本方針と重点収集資料について

安曇野市がめざすべき図書館本館と分館の基本方針と重点収集資料については、次のとおりとするべきであると考える

	基本方針	重点収集資料
本　　館	・市内図書館サービスの中枢機能 ・市民の誇りとなり、市民の文化的シンボルとなりうる図書館 ・周辺環境に配慮し、機能的でデザイン的にも優れた図書館 ・長時間利用可能な図書館	・市民全体の図書館として、調査研究・教養・レクリエーション・ビジネス・まちづくりなど幅広いニーズに対応しうる資料、情報 ・本館以外の分館等も支援しうる資料（市全体の体系的な資料収集を考慮）
分　　館	・本館の分館機能 ・利用者が、分館の蔵書を自由に手にとって見ることができる図書館 ・規模・地域性及び機能に応じた蔵書構成の図書館	・地域住民の図書館として、教養・レクリエーション・ビジネス・日常生活に役立つ資料、情報 ・地域の特性に応じた資料（特別コレクション）

(4) 市内図書館の本館と分館の配置について

①本館の位置について

本館の位置については、約 20 万冊(開架 15 万冊、閉架 5 万冊)の蔵書が可能な施設規模を前提に、全市民が利用しやすく、かつゆとりをもって必要なスペースを確保し、また建物周辺に市民の憩いや交流のスペースの必要性も考慮し慎重に検討した結果、安曇野市穂高、旧ワシントン・グランドの地がふさわしいとの結論に至った。

その主な理由としては、すでに市有地として確保されているため土地購入のための新たな経費が必要でないこと、本館及びその駐車スペースなどを整備することができる充分な敷地面積があること、JR 穂高駅と柏矢町駅から徒歩で行くことが可能であること、周辺は住宅地や公園など静かな環境で、北アルプスの山並みも望むことが出来、読書や生涯学習の場にふさわしい地であること、などである。

但し、本館の整備とともに、穂高駅と柏矢町駅から歩行者専用道路の整備や市内循環バスの運行もあわせて行う必要がある。

②本館と分館の配置について

安曇野市全体としては、本館と分館を併せ約 40 万冊の蔵書が収蔵可能となるよう本館整備とともに 4 つの分館を整備する必要がある。

その整備すべき場所及びそれぞれの蔵書冊数等については、以下のとおりである。

機能	サービスエリア	対象人口	整備場所	蔵書冊数		
				開架	閉架	合計
本　館	市内全域	約 100,000	穂高・旧ワシントングラウンド	150,000	50,000	200,000
分　館	豊科地域	約 28,000	安曇野市豊科近代美術館に併設	60,000	6,000	66,000
	三郷地域	約 19,000	三郷中学校北側	50,000	5,000	55,000
	堀金地域	約 10,000	堀金総合支所内若しくは現堀金保育園	35,000	3,000	38,000
	明科地域	約 10,000	「ひまわり」内に既設	38,000	3,000	41,000
			合　　計	333,000	67,000	400,000

(5) 図書館に付帯する機能の整備について

図書資料の貸出や閲覧という図書館の主な機能に付帯することにより、市民が利便と居心地良さを感じ、図書館が市民生活に密着した施設となるよう、次の機能の整備について検討し、以下のとおり結論づけた。

	①資料保存機能	②学習研究機能	③図書館講座開催機能	④移動図書館拠点機能	⑤子育て支援機能	⑥市民交流機能	⑦紙媒体と電子媒体の組み合わせによる情報提供機能	⑧お年寄り、障害のある人への支援機能
中央図書館	◎	◎	◎	×	○	○	◎	◎
豊科図書館	×	○	○	×	○	○	○	○
三郷図書館	×	○	○	×	○	○	○	○
堀金図書館	×	○	○	×	○	○	○	○
明科図書館	×	○	○	×	○	○	○	○

◎は全市的な視点で充実させる機能、○は地域を対象とした機能、×は整備しない機能

①資料保存機能

市民が必要に応じて調査研究等に活用できるよう、必要な図書資料等を収集・保存する機能。本館と分館とを整備する方向の中で、資料保存機能は本館に集中して整備することとしたい。

②学習研究機能

中高生等に自己学習のスペースを提供し、さらには、広く一般にもビジネス支援を含めた生涯学習としての場も提供する機能。本館においては専門的、学術的な調査研究の場までを、分館においては気軽な学習の場を提供することとしたい。

③図書館講座開催機能

読書会や文学講座、上映会等の図書館講座を開催する機能。本館においては相当の規模のものまでを、分館においては気軽なものを開催する施設としたい。

④移動図書館拠点機能

図書館から離れた地域の住民を対象に、移動図書館の巡回を行う機能。この機能ついては、前章で問題点としてまとめたとおり、利用者が激減しており、新たな図書館整備に合わせて取り止めることとしたい。ただし、穂高地域で実施されている配本制度や団体貸出制度の充実や､お年寄りのための無料バス運行、ボランティアの確保など、十分な代替施策を講じた上での措置としたい。

⑤子育て支援機能

乳幼児連れの親子が気がねなく読み聞かせを行なったり、遊びながらの読書が楽しめる場を設け、ブックスタート事業の場ともなる機能。今後は「親子優待デー・時間帯」の設定などのソフト面も含めて、全ての図書館において整備、充実させていきたい機能。

⑥市民交流機能

市民が気軽に集い、イベント等の企画、打合せ、準備などを自由に行える場を提供する機能。規模は大きくないが、活動や研究成果の発表の場、展示スペース等の設置も含め、すべての図書館に整備したい。

⑦紙媒体と電子媒体の組み合わせによる情報提供機能

紙媒体とインターネット等電子媒体の組み合わせによる図書館のハイブリッド化を進め、商用データベースの活用や他の図書館とも連動した検索システムの整備し、行政や学校図書館と連携して情報提供する機能。本館においてはその中枢機能を、分館においては気軽に情報を得られる場を整備したい。

⑧お年寄り、障害のある人への支援機能

お年寄り、障害のある人のための資料を揃え、必要に応じて配本等のサービスを行う。なお、本館では録音図書の作成などを行うとともに、施設・設備面でも十分配慮する。

(6) サービス目標値

本館並びに各分館を適切に整備した状況を前提に、サービス目標値を下記のとおり設定し、実現に向け努力されたい。

● 現在の安曇野市の状況

①サービス人口	99,080 人
②個人貸出登録率	15%
③個人登録者数	15,437 人
④1 人あたりの貸出点数	2 冊
④総蔵書冊数	200,000 冊

● 目標値

①サービス人口	100,000 人
②個人貸出登録率	30%
④1 人あたりの貸出点数	4 冊
③個人登録者数	30,000 人
④総蔵書冊数	400,000 冊

※ 目標の算出基礎になるのは図書館のサービス対象人口である。
※ 安曇野市の人口は、平成 18 年 4 月 1 日現在で 99,080 人である。
※ 目標達成時期は、本館及び分館整備後 5 年以内とする。
※ 目標値に定めた個人貸出登録率及び個人登録者数は、その年度に図書館を実際に利用した者とする。
※ 「公立図書館の任務と目標」（1989 年 1 月確定公表　、2004 年 3 月改訂日本図書館協会図書館政策特別委員会）の内容などを参考とした。

2．交流学習センターとしての複合機能のあり方

(1) 複合施設の是非

旧３町村の交流学習センター建設計画のいずれもが図書館を含む複合施設計画となっているが、あらためて計画のそれぞれの機能について安曇野市にとって「複合」とするのが良いのか、「単独設置」とするのが良いのかについて検討した。

中央図書館については、「知的な気分になれる、すべての人に優しい」本来の図書館の整備が理想との考えから、充実した機能、規模での単独設置の希望も強く、また美術館と図書館の複合、児童館と図書館の複合についても異論があった。

しかし、検討の結果、既設の明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」の活用状況等から、市民に多様なすごし方や出会い、交流を提供できること、さらに安曇野市の生涯学習の質の高まりに期待し、複合施設として整備すべきとの結論に至った。

特に「ひまわり」では、いくつかの機能が複合されていることや、円形という建物の構造的な理由からか、市民の「たまり場」的施設となっていること、また「静」「動」の正反対の性格を感じさせる「図書館」と「児童館」とが複合されているが、それが利用者にとってマイナスとなっていない点などが参考とされた。

なお、今後の市民活動の中で、交流学習センターに「交流の場」としての役割が求められてくるが、これに応えるためにも市民がボランティア活動等に自由に使えるスペース等の複合も必要とまとめた。

(2) 豊科交流学習センターへの美術館補完機能の設置

旧豊科町の計画では、豊科交流学習センターは図書館主体の計画で、一階に図書館が、二階には、接続する豊科近代美術館を補完する部屋等と、交流のスペースとが配置されている。

当検討委員会の検討の中での、豊科地域の図書館整備計画は「分館」の位置づけであり、施設規模も大幅ではないが縮小することとしている。

また、豊科近代美術館は、建設時の諸事情もあり、美術館としての威風を感じさせるロマネスク調の外観にもかかわらず、内部は手狭な部屋が連なり、大型の絵画をきちんと展示、鑑賞できるスペースがなく、建物内に相応の美術品収蔵庫も無いなど、美術館としての基本的条件を満たしていない状況であることが判明した。

このため、検討の結果、豊科交流学習センターの建設は、豊科近代美術館を安曇野市の「基幹美術館」として、内外から認められる規模、内容のものとするために必要な施設整備を主体に行うべきとし、また、併設される図書館（分館）についても、一般的な図書館機能に加えて、美術館が収集した図録等も活用した美術館を補完するなど、特色をもった図書館として整備すべきとの結論となった。

なお、美術館機能を高めるためには、今回の建設計画において以下の施設整備が不可欠であるとの意見が出された。

① 市民が発表しあい鑑賞しあうことで交流ができ、大きな作品をゆったり鑑賞できるギャラリー。
② 大型のオブジェ等を展示し三次元的に鑑賞できる、多目的にホールとしても使用できる吹き抜け状の立体的スペース。
③ 内外の芸術家からも活用されるとともに、新しい芸術家を育む場所ともなるようなアトリエや学習室。
④ 安曇野地域が芸術的に注目される地域となるような美術品の収集や、市が所蔵してはいるものの十分な保管状態にない美術品の集中を行い、適正に保管できる相当規模の収蔵庫。

※なお、市内の文化施設等が所蔵する美術品について、検討資料として作成したものを附属資料１として末尾に掲げた。

また、豊科交流学習センターの建設場所については、「できる限り現在の芝生を生かすように」、また建物の外観についても「基本設計の絵にこだわらず、設計の変更を行い、現在の美術館の外観にマッチし景観を損なわないよう配慮した外観とすべき」ということに充分配慮し、旧豊科町の計画どおり近代美術館南側との集約がなされた。

(3) 穂高交流学習センターへの地域学習館の設置

旧穂高町の計画においては、単独の顕彰施設が整備されている荻原守衛や井口喜源治、臼井吉見などを除く、安曇野市が生んだ歴史上の複数の著名人について顕彰するための機能の複合が、穂高交流学習センターに計画されている。

ただ、現在も安曇野市内には顕彰施設が数多くあるものの、一部を除いては参観者が少なく、十分に活用されている様子がないこともあり、「特定人物の顕彰」を目的に施設を建設することについては、反対の意見が多かった。顕彰の対象となる歴史上の人物の選定及び展示方法は、専門家中心に慎重に行うべきと結論づけた上で、最終的には、「顕彰」のイメージを脱し「歴史を残す」という視点から、安曇野市の歴史や人物、さらには文化や自然、産業等の分野についても文書資料等の収集、保管と活用を図る地域学習の拠点としての「地域学習館（仮称）」を中央図書館に複合して整備する方向でまとまった。

また、穂高交流学習センターには中央図書館が配置され、来館者もかなり多いことが予想され、特に、ＪＲ穂高駅から徒歩で来館する場合等の分かりやすく安全な経路の確保も重要との意見が多く出された。実際に歩いて確かめるなどした経緯から、ユニバーサルデザインの考え方(P28 を参照)での周辺道路の整備とともに、「矢原堰」沿いの管理道路を整備するなどの案も出され、施設へのアクセス全体を考える中で、今後の取り組むべき課題とした。

なお、検討の経過において、地域学習館の整備について次のような重要な提案がなされた。

① 残したい安曇野の歴史をきちんと残し、それを知り、勉強する施設。
② 市民の自由で自発的な学習や研究、その成果の発表の場となるための十分で魅力的な設備、スペースが必要。
③ 展示メインではないが、研究の成果等としての歴史や人物、文化財を広く効果的に知らしめる展示の場は必要。
④ 展示は常設ではなく、学芸員が主体となった企画展示中心に。
⑤ 各地域でそれなりの役割を果たしている他の記念館や文化施設は引き続き大切にし、これらとのネットワークを構築し、観光客等のためのインフォメーションセンターに。
⑥ ここに行けば安曇野市をすべての面から掌握できるというセンターに。
⑦ 安曇野の歴史上の著名な人々を研究、顕彰し、その功績等を展示することは大切。
⑧ 貴重な歴史資料となる古文書等の収集・保存・活用を行うアーカイブの機能を持つ施設とする。そして図書館(ライブラリー)との複合体として整備する。尚、公文書及び行政刊行物の収集・保存・活用については別施設等の整備を考える必要がある。

※顕彰の対象となる歴史上の人物の候補者については、検討資料として作成したものを附属資料 2 として末尾に掲げた。

(4) 三郷交流学習センターへの児童館の設置

旧三郷村の計画では、三郷交流学習センターは「図書館」「児童館」「多目的ホール等共有スペース」の複合施設となっている。

当検討委員会の安曇野市全体の図書館整備計画の見直しにおいて、三郷地域の図書館は「分館」整備の位置づけであり、施設規模は縮小することとされた。

ただ、三郷地域は児童数が増加傾向にある地域にもかかわらず、市内５地域では計画も含め唯一児童館の空白地域であるため、相当規模の児童館を早急に整備すべきとした。特に旧三郷村の計画（プロポーザル提案）では、子どもたちの活動に十分対応できないばかりか、狭さと配置の悪さから、危険をも伴いかねない状況にあるとし、施設面積を８００平方メートル以上に増やし機能を充実させ、将来の子ども支援施策や地域要望に応えられるものとする方向で提案することとした。

また、三郷地域の児童館整備については、地域の事情として児童クラブの受け入れ場所がないなど切迫したものがあり、建設時期については、当検討委員会で検討している図書館や地域学習館、美術館など他の機能の建設整備より当然優先されるべきとの合意もなされた。

また、三郷交流学習センターの建設場所については、旧三郷村の計画どおり三郷中学校北に建設することが妥当としたが、構造的に三郷中学校と接続することについては、子どもたちの活動特性や不登校の子どもたちの居場所づくり、学校管理などの面から見直すべきとの結論となった。

なお、次項において総括する多目的ホールの整備等も含めた検討の中で、三郷交流学習センターの現計画について、次のような重要な問題点が指摘された。

① 図書館や児童館という明るさと居心地良さが求められる施設であるにもかかわらず、中学校裏の日陰地に敷地一杯に建設することになっている。
② 子どもたちの遊び場となる公園が、道路と大きな水路を挟んで配置されているが安全面で大丈夫か。
③ 児童館に十分な広さと機能を備えたプレイルームを整備することとし、不足する遊び場を多目的ホールに求めることは、構造的にも止めるべき。
④ 図書館、児童館という本来併設させたくない施設を整備し、特に児童館を早急にということであれば、同じ敷地内に分棟する方法も検討すべき。
⑤ 周辺の駐車場用地はこれほど広く必要なのか。借地とすれば、後の世代に大きな負担を回す結果とならないか。

(5) 各交流学習センターへの多目的ホールの整備

旧三町村の計画では、各センターとも席数は異なるものの、移動観覧席を有するコンサートや講演会、展示、会議等に多用途に利用できる「多目的ホール」が計画されている。

ホールについては、他市町村を見ても整備後の活用が極めて低い例が多く、結果的に「無駄な投資」と言われる状況もあり、検討の中でも整備について慎重な意見が多かった。

またさらに、それぞれの交流学習センターに整備することとした図書館や児童館等の機能に付随し、その機能をより発揮するために「ホール」を整備するのか、言い換えれば「施設のためのホール」なのか、または、市内５地域に着目し、地域には地域の市民が集える相当の「ホール」をそれぞれ整備するのか、つまり「地域のためのホール」建設を目的とするのかが大きな争点となり、このことについて検討を行った。

その結果として、市内全域を視野に入れた安曇野市にふさわしい規模と機能を備えた「市民会館」「市民ホール」が近い将来、建設されるであろうことを前提に、交流学習センター整備に関わっては、機能を十分発揮するための「施設のためのホール」を整備すべきとの結論に至った。

さらに、それぞれの機能を十分発揮するためのホールであるとすれば、一般的なコンサートやイベント開催を想定した多数の席数を有する汎用的ホールではなく、使用目的を明確に捉えた構造を持つ 200 席程度のシンプルなホールとし、なるべく市民が利用しやすい使用料金の設定が望ましいとした。

(6) 交流学習センターにユニバーサルデザインの考え方を

あるゆる技術、デザインは特定の人のために開発されるのではなく、すべての人に使えるよう開発されるべきである、というユニバーサルデザインの考え方をもって、子どもからお年寄りまで、誰もが安全に快適に利用し、働ける交流学習センターとして整備されるべきである。

留意すべき事項の一例は、下記のとおりである。

① トイレはオストメイト(人工肛門や人工膀胱を持つ人々の国際的な名称)対応の多目的トイレとする。また要介護と介護者が異性の場合があることなどにも配慮した設計とすること。
② エレベータやスロープはなかで車椅子利用者が円滑に利用できるよう充分な面積とする。
③ スロープや廊下は、滑りにくい材料で仕上げる。

(7) 交流学習センターのソフト面の充実を

市民の多様な文化ニーズにこたえるとともに、様々な活動を通して活発に市民が交流できる場とするために、効率的で効果的な運営方法等について、図書館支援ボランティア、民間文化団体等、市民等の意見を聞きながら、引き続き多角的に検討を進めていく必要である。

3．各地域の交流学習センターのあるべき姿

(1) 豊科交流学習センター

- 豊科交流学習センターは、豊科文化ゾーン内の豊科近代美術館に接続し、なるべく美術館南の芝生を生かすよう配慮して建設したい。
- 近代美術館のロマネスク調の外観にマッチし景観を損なわないよう配慮した外観を持つ建物としたい。
- 「近代美術館をより充実させる機能」、「安曇野市豊科図書館」、「市民の交流スペース」のそれぞれを有する複合施設として整備したい。
- 美術館機能としては、大型絵画がゆったりと鑑賞できる「ギャラリー」、立体的に活用できる 200 席程度の「多目的ホール」、現在分散している市所蔵の美術品等を集中させて保管できる「収蔵庫」等を整備し、豊科近代美術館を内外から安曇野市の基幹美術館として認められる美術館としたい。
- 豊科図書館は、市内図書館の中では分館の位置づけとし、蔵書規模は約 66,000 冊、美術関係の図書資料を充実させるなどの特色を持った図書館とし、地域市民の生涯学習の場となる学習研究機能や講座開催機能、また子育て支援の機能を有すものとしたい。
- 市民が気軽に集い、自由に活動できるオープンスペースの交流の場や付帯設備を整備し、多目的ホールや学習機能とも連携させ、活発な市民の交流の拠点ともしたい。

(2) 穂高交流学習センター

- 穂高交流学習センターは、穂高のワシントングラウンド（元穂高小学校跡地）に、「中央図書館」と、地域学習の場であり地域情報のセンターともいえる「地域学習館」、「市民の交流スペース」の複合施設として建設したい。
- 中央図書館は、市内図書館の本館の位置づけであり、市民の誇りとなりうる機能的でデザイン的にも優れた図書館としたい。
- 蔵書規模は、専門書等も含めて約 20 万冊（開架 15 万冊、閉架 5 万冊）とし、市内図書館では唯一資料保存機能を有し、これら資料を活用した学習研究機能や講座開催機能も全市的視野で整備することとしたい。また、子育て支援機能等の穂高地域における地域図書館として必要な機能も整備したい。
- 地域学習館は市民が主体的に安曇野の歴史や人物、文化、自然等を学習研究し、その成果を発表、展示し、地域文化を高めようとする施設であり、多様な活動が十分可能となるよう 200 席規模の多目的ホールをはじめ、各種学習室や展示スペース等を整備したい。
- 市民が気軽に集い、自由に活動できるオープンスペースの交流の場や付帯設備を整備し、多目的ホールや学習機能とも連携させ、活発な市民の交流の拠点ともしたい。

(3) 三郷交流学習センター

・ 三郷交流学習センターは、三郷中学校北に、「三郷児童館」と「三郷図書館」、「市民の交流スペース」の複合施設として建設したい。
・ 三郷児童館は、計画を含め唯一児童館空白地域となっている三郷地域の児童対策や子育て支援施策の拠点となるもので、十分な規模と機能を備えた施設として、早急に整備したい。
・ 三郷図書館は、市内図書館の中では分館の位置づけとし、蔵書規模は約 55,000 冊、地域市民の生涯学習の場となる 200 席程度の多目的ホールなど学習研究機能や講座開催機能、また子育て支援の機能も有すものとしたい。
・ 市民が気軽に集い、自由に活動できるオープンスペースの交流の場や付帯設備を整備し、多目的ホールや学習機能とも連携させ、活発な市民の交流の拠点ともしたい。

(4) 堀金交流学習センター

・ 堀金交流学習センターは、蔵書規模 38,000 冊程度で学習研究、講座開催、また子育て支援の各機能も有する「堀金図書館」を核とした、地域市民の活発な交流の拠点として整備したい。
・ 整備場所については、新市庁舎建設に伴い空くことになる堀金総合支所内の一部、また堀金保育園の跡地など候補地はいくつかあるが、既存施設利用、若しくは新設も含め必要な施設規模と機能を、今後の状況を的確に判断し、決定することが重要と思われる。

(5) 明科交流学習センター

・ 明科地域では、「子どもと大人の交流学習施設」において、他地域で整備される交流学習センターが目指す市民活動がすでに展開されており、今後は、この施設の活用をさらに充実することが求められると思われる。

付属資料１

安曇野市所蔵の主な美術工芸資料

●豊科地域

1．安曇野市豊科近代美術館 所蔵品総点数（平成 18 年 6 月 29 日現在）　総点数　3,191 点

(1)作者別内訳

高田博厚作品 246 点、小林邦作品 177 点、宮芳平作品 2,664 点、奥村光正作品 77 点、辻野弘之作品 11 点、井上直久作品 2 点、その他 14 点（西田幾太郎、大島秀信、木村辰彦、イザベル・ルオー、曽宮一念、清水多嘉示、倉田白羊、梅原龍三郎、石井柏亭、山下新太郎、イエール・アルツィ）

(2)技法別内訳

彫刻 191 点（高田作品 190 点、イエール・アルツィ 1 点）、油彩画 526 点（小林作品 2 点／宮作品 465 点／奥村作品 49 点、その他<ルオー、木村、曽宮、清水、梅原、石井、山下、飯沼>　10 点）、日本画 1 点<大島>、水彩画 4 点（井上作品 2 点／宮・パステル作品 1 点／奥村作品 1 点）、デッサン 2,283 点（高田作品 44 点／小林作品 104 点／奥村・油彩ドローイング作品 27 点／宮作品 2,107 点<うちペン画 42 点、なお不明 11 点除く>／その他の作者の作品<倉田?>1 点）、スケッチブック 92 点（小林作品 68 点／宮作品 24 点）、版画 93 点（高田作品 12 点／小林作品 3 点／宮作品 67 点／辻野作品 11 点）、書 1 点<西田幾多郎>

(3)購入・寄贈別内訳

購入 366 点、寄贈 2,825 点

2.安曇野市豊科郷土博物館

美術工芸資料　所蔵品総点数（平成 18 年 6 月 29 日現在）　総点数　288 点

小林邦作品 4 点、小林章作品 91 点、奥村光正作品 2 点、小川大系作品 1 点、藤森桂谷作品 18 点、その他 172 点

●穂高地域

安曇野市穂高会館所蔵　美術資料　所蔵品総点数（平成 17 年 1 月 26 日現在）　総点数　177 点

小川大系作品 111 点(ブロンズ 37 点、石膏 74 点)、その他 66 点(小室孝雄作品 12 点、小林邦作品 1 点、島田彦五郎 1 点、西沢伊太郎 1 点、城田孝一郎 14 点、その他 51 点)

●堀金地域

安曇野市堀金歴史民俗資料館　美術工芸資料　所蔵品総点数（平成 18 年 6 月 29 日現在）　総点数　2 点

榎本良一（堀金烏川）作品　油絵　「バンガローのある風景」（170×200）1 点、

米倉庄男（堀金烏川）作品　日本画「題不明」（もろこしの絵）（160×114）1 点

以上　総点数　3,658 点

付属資料 2

1．安曇野市ゆかりの人物

№	名前	生年	業績など	出身、ゆかりの地
1	隠岐笹雄	不明	当地方最大の塾、寺子屋竹葉塾の師匠。	明科（東川手）
2	田沢幸国	不明	田沢四郎、真田四郎ともいい、田沢山城を築いた。	明科（上川手）
3	塔原幸次	不明	塔原に住み塔原三郎と称した。塔原に長峰城を築く。	明科
4	鳥羽大吉	不明	小林一茶の流派をうけ近郷近住の俳句の宗匠としてきこえた。	明科（東川手）
5	多田加助	1629～1684	貞享の義民。	三郷（中萱）
6	臼井弥三郎	1621～1690	弥三郎堰（矢原堰）の開鑿。	穂高（矢原）
7	得誉上人	1649～1727	専念寺第 14 代住職。浄土宗知恩院派の名僧。霊力によって衆生を救済。	豊科（下鳥羽）
8	釈弘範	1655～1734	穂高等々力の牛流山真竜院に錫をとどめ、衆生済度と師弟の薫化につくす。	穂高(等々力)
9	荒川玉芳	1681～1757	穂高の名僧釈弘範に師事し仏典や漢書を学び、詩歌俳諧に優れていた。	松本。穂高の荒川氏に嗣いだ。
10	平林梅二	1704～1757	狩野派の画家、狩野梅栄に師事。号を幽仙斎または有明里人と称し、特に人物山水画に秀でた。	穂高(白金)
11	飯沼覚兵衛		藩主に再検地請願。「丹波守のお情竿」。	三郷(長尾・二木)
12	狩野梅玄	文政(1818~1829)頃	狩野梅笑の門人で、俳句・茶の湯にも通じていた。幾多の傑作を残す。	豊科(細萱)
13	等々力孫一郎	1751～1831	十か堰の開鑿。	松本。穂高組大庄屋等々力孫衛門の養嗣子。
14	白沢民右衛門	1749～1832	十か堰の開鑿。	穂高(等々力)
15	中嶋輪兵衛	1752～1838	十か堰の開鑿。	穂高(柏原)
16	播隆	1782～1840	槍ヶ岳に三郷の中田又重郎と仏像を安置。	越中
17	平倉六郎右衛門	1759～1840	勘左衛門堰の願人。十か堰の開鑿。	堀金(下堀)
18	松岡平臣	1786～1849	悲憤慷慨、時事を談じ、和歌に詩文にその感懐を述べて国事に尽くした。	三郷(下長尾)
19	中田又重郎	1796～1852	飛騨新道の開鑿。槍ヶ岳に播隆と仏像を安置。	三郷(小倉)
20	牛越茂左衛門	～1852	荻原より堰を延長して小泉の北端に達する計画を完了。	明科（陸郷）

21	中村英碩	1784～1863	松本藩の藩医を拝命、貴賤貧富の別なく施療。	三郷(上長尾)
22	岡村勘兵衛	1778～1868	十か堰の開鑿。	豊科(吉野)
23	丸山保秀	1762～1868	歌道に精通、松本平に多くの歌人を輩出、藤森桂谷も感化を受けた。	豊科(成相)
24	高島章貞	1804～1869	外科に秀で、穂高で星園塾を開く。弟子に松沢求策。	穂高
25	石井佐兵衛	1814～1870	建築を習い、立川和四郎の高弟となる。万願寺の手洗閣の彫刻等、その足跡は近畿・中国・関東に及ぶ。	明科（東川手）
26	横山義彦	1803～1873	桂園派の和歌和文に長じ、四季または櫟園と号した。	豊科(高家)
27	百瀬茂三郎	1821～1873	天蚕を飼育して大成。	穂高(古厩)
28	倉田為吉	1846～1880	諏訪出身の一平行者に弟子入りし、梓川花見沢山の不動滝で一の行をし、天明行者という。	堀金(扇町)
29	務台伴語	1814～1887	若い時から家塾を開き、以後弟子を教えること 40 余年、地方文化の先駆者であった。この塾はこの地方最初の小学校になる。	三郷(野沢)
30	曽根原林三	1842～1887	天蚕の飼育に長じ、東京に天蚕社を設けてその社長となった。	穂高(新屋)
31	松沢求策	1855～1887	自由の志気を昂揚し、国会期成同盟会の規約起草委員となる。	穂高(友弥)
32	藤岡甚三郎	1839～1892	蚕種究理の法を発見。	三郷(中萱)
33	望月章斎	1814～1893	狩野洞章に師事し、後郷里に帰り、盛んに画作し、多くの弟子が門下に集まった。	穂高(等々力)
34	小穴文龍	1822～1893	漢法の名医。門弟が各地にわたって多数あり、教化が広く及んだ。	豊科(踏入)
35	望月忠蔵	1826～1895	高島章貞門下俊秀の一人で、廃仏棄釈の嵐が巻き起こるなか、栗尾山満願寺の価値を力説。	穂高(白金)
36	竹内泰信	1843～1897	松沢求策と共に自由民権論を主張し国会の開設を促した。	豊科(飯田)
37	臥雲辰致	1842～1900	綿糸紡績機(ガラ紡績)を発明し、わが国紡績業界に多大なる貢献をした天才発明家。	堀金(小田井)
38	丸山栄一郎	1851～1901	下水内郡長、南安曇郡長等を地方行政に功労、実業界でも活躍。	豊科(本村)
39	藤森桂谷	1835～1905	自費を投じて法蔵寺境内に学塾を設ける。自由民権、国会開設運動に参画。晩年は絵画に精進。	豊科(新田)
40	岩渕新六	1823～1905	雲竜寺に弟子入り、漢学を修める。生坂で寺子屋式の教授法による教育を施した。	明科（中川手）
41	矢野口保邦	1863～1906	橘道守の門に入り、歌道をきわめた。また国歌朗詠の古式を冷泉流の宗師に学び、信州にはじめて伝える。	麻績。穂高有明、矢野口登一の養子となる。

42	荻原碌山	1879～1910	研成義塾の井口喜源治に深く傾倒。日本の彫刻界に黎明をもたらした。	穂高(矢原)
43	多田道弥	1850～1911	夏蚕種の製造を業とし、順温法による究理法を伝授、農商務大臣から賞せられる。	三郷(中萱)
44	岡村阜一	1839～1913	巨額の私財を投じ、また広く同志の浄財を募り、有明神社里宮を復興し、その増築を完成。	豊科(寺所)
45	百瀬謙三	1846～1916	松本より糸魚川に達する県道道筋豊科松本間の新道開設に尽力。	三郷(一日市場)
46	大月亀吉	1826～1916	松本藩士の門人となり諸国を遊歴。柔術は無双流、剣術は一刀流の免許皆伝。算術を究め家塾にて教授。	明科（上川手）
47	松岡好一	1865～1917	松沢求策と国会開設の請願運動を展開、南洋移民方策をたて、豪州に領事館設置が許可される。	三郷(二木)
48	小穴五郎	1855～1918	南穂高村初代村長。後に県議会議員となり学校役所等の新設、道路河川堤防等の改修に実績をあげた。	豊科(踏入)
49	高木保吉	1865～1919	書画に長じ、南宋画法を学び、後進の指導育成に努め、信濃書画協会を創設。	豊科(熊倉)
50	百瀬亥三松	1820～1923	村長、県議会議員に当選。祖父につぎ中房温泉を経営し、道路の修理開発に尽くす。	三郷(一日市場)
51	岩原愛策	1868～1923	烏川村長、小学校本校舎建築、梓橋・田沢橋等の橋梁、郡内道路改修に奔走尽力。県議会議員にも当選。	堀金（上堀）
52	三沢力太郎	1856～1925	教育の刷新に努力。また日本人の科学的常識の啓発に意をそそぎ、日本の科学水準を高めるために大きな役割。	三郷(七日市場)
53	丸山貫長	1843～1927	新義真言宗豊山派長谷寺に属する名僧。室生寺、大蔵寺、観心院住職を歴任。	豊科(熊倉)
54	篠崎四郎	1869～1929	一代交配による蚕品種の改良とその普及に努力。県議会議員としても活躍。	明科。豊科踏入に養嗣子
55	飯田慶司	1872～1933	県会議員に当選、南安曇農学校と豊科高等女学校を誘致。	豊科（高家）
56	二木保幾	1892～1934	早稲田大学の経済学教務主任。理論経済学を専門とし斯界の重鎮、学園の至宝といわれた。	三郷(一日市場)
57	小平総治	1876～1935	陸軍省通訳官として北支に従軍、支那国民の教化啓発に尽力。	穂高
58	岡村千馬太	1875～1936	坂北小、和田小、山形小、梓小校長などを歴任、教育会館の建設を提唱、実現をみた。	三郷(中萱)
59	丸山光司	1864～1937	蚕種業界の功労者であり大先覚者。一乗寺の新築に奔走して許可を得、私財を寄付し工事を着工、完成。	豊科
60	黒岩島	1879～1937	八十二銀行発足時に業務課長等の職にて活躍、県農村経済改善委員等で尽力。	堀金（下堀）

61	井口喜源治	1870～1938	研成義塾を開設、35 年間清貧に甘んじつつ、指定の教育に精魂を傾けた。	穂高（東穂高）
62	倉科多策	1865～1939	旅館明科館経営者。私財を投じ、湧水を利用して明科養鱒場を設け県に無償貸与など地域発展に尽くす。	明科（中川手）
63	等々力森造	1872～1940	支那事変、大東亜戦争中に中将に昇進。	穂高(柏原)
64	降幡数太郎	1869～1940	小倉村助役、村長を歴任。小倉官林約 600 町歩開墾、小学校校舎、教員住宅、役場改修など	三郷（南小倉）
65	飯沼正明	1912～1941	日本最初の長距離高速通信飛行の記録を作り、「空の覇者」「朝日の飯沼」と広く世間に知られる。	豊科（細萱）
66	三沢英一	1882～1942	豊科小学校校長等を歴任、信州教育界にも大きな存在に。	堀金（田多井）
67	望月伝市	1870～1943	田沢山 300 町歩の山林育成になみなみならぬ努力を続け、見事な成果。	豊科（田沢）
68	青柳栄治	1873～1944	京都帝大理工科教授となり、教育振興、電気工学事業発展に寄与。わが国電気工業界の泰斗といわれる。	堀金（南原）
69	森山儀文治	1863～1945	松本市に弁護士を開業。松本市弁護士会の重鎮として地方自治発展のため貢献。	広岡村。三郷七日市場に養子
70	加藤曽十郎	1871～1945	日清、日露戦争に出征、陸軍少将に昇進。	三郷(中萱)
71	山本安曇	1885～1945	研成義塾で井口喜源治の薫陶。東京美術学校で碌山の影響を受ける。文展審査員となって斯界に貢献。	穂高（立足）
72	清沢洌	1890～1945	大東亜戦争勃発し、干渉圧迫のなか国際主義自由主義の代表論者として活躍。	穂高（青木花見）
73	白沢保美	1868～1947	林学博士、貴族院議員の栄誉をもつ。わが国林学界に大きな足跡を残した。	三郷(一日市場)
74	丸山盛雄	1875～1947	県議、信濃電気株式会社副社長、長野新聞社社長などの要職につき、長野県実業界の大立物として活躍。	豊科（本村）
75	三村惣平	1877～1947	県議として梓川農業水利改良工事に関連した発電事業等の功績、南安曇郡蚕業同盟会長など要職を歴任。	三郷(下長尾)
76	藤森馨	1886～1947	信州実業界の重鎮として活躍したのち、豊科町長に就任、地方行政に貢献。	豊科
77	二木柄伍	1877～1948	松本市土木課長、温明助役、村長、県会議員として幾多の業績を残す。	三郷（明盛）
78	小穴憲吾	1869～1949	信州の教育会の重鎮として高く評価。	豊科(踏入)
79	丸山岩雄	1881～1949	法華経の教義を体得し、深く日蓮を讃仰、肥料飼料商を営み商界に大をなす。	堀金（小田多井）
80	山口蒼輪	1913～1950	花鳥静物が得意とした日本画家。日本美術院院友。	堀金（岩原）
81	等々力いく	1873～1951	日本赤十字社本社看護婦長となる。東宮妃、秩父宮・高松宮のご看護。	穂高(等々力)

82	安間静馬	1884～1952	堀金などの教頭を歴任、管理職の校長になるのを嫌い、その後代用教員として教師生活。	穂高
83	保尊良朔	1896～1953	日本画家。日本美術院院友。新興美術院を創設して新人の育成に力を尽くす。	穂高（本郷）
84	相馬愛蔵	1870～1954	東京本郷の中村屋というパン屋を譲り受け、新宿に中村屋を開く。碌山や山本安曇を援護。	穂高(白金)
85	相馬黒光	1876～1955	穂高白金の旧家相馬家の人となる。夫愛蔵に同心協力、犠牲を払って惜しまなかった。	仙台市
86	小室孝雄	1892～1955	岡田三郎助に師事、油絵の研究に精進、日本洋画壇にて活躍。郷土の美術振興にも貢献。	穂高（上原）
87	高木義人	1886～1956	陸軍中将、君国のためにひたすら尽くした。	豊科(熊倉)
88	中田太郎	1898～1957	マンダレー大学教授として、蚕糸学科創設と新天地蚕糸業開発。	三郷(小倉)
89	黒岩重義	1877～1957	烏川村長。梓川横断逆サイフォン式伏越工事に着手、竣工せしめた。	堀金（下堀）
90	小林茂樹	1878～1958	医学得業士の資格を得、開業。貧困者からは一文の診料をも受けず、地域の人々は彼を救世主の如く尊敬した。	明科（東川手）
91	長谷川清登	1896～1959	一等飛行士となり、のちに陸軍航空学校の教官となる。	豊科
92	等々力巳吉	1894～1959	教師となったのち画壇で活躍。二科展、日本美術院、一水展、日展などに出品。	穂高（柏原）
93	白木正博	1885～1960	医学博士。九州帝国大学、東京帝国大学教授を歴任。わが国産婦人科学界の発展に多大な業績。	三郷(一日市場)
94	板花義一	1889～1960	昭和はじめ、わが国が軍事的に重要且つはなやかな動きをみせた時代にその職務にまい進。	堀金（田多井）
95	山田実	1882～1960	穂高神社のために奔走数々の功績。南安曇郡誌編纂委員など要職歴任。	穂高（上原）
96	宮下武一郎	1868～1960	明治商事株式会社の設立に尽力し、社長に就任。明治製菓の取締役も兼ねた。	明科（七貴）
97	植原悦二郎	1877～1962	剛直廉潔な政治家であり、真摯熱烈な政治教育家。国務大臣、内務大臣等を歴任。	三郷（中萱）
98	藤森秀夫	1894～1962	慶応義塾大学、明治大学、早稲田大学、明治大学で教鞭をとる。ドイツ文学者、詩人。	豊科（新田）
99	花村四郎	1891～1962	弁護士。在野司法の重鎮となったのち、衆議院議員。法務大臣等を歴任。	豊科（光）
100	三原儀十郎	1875～1965	豊科町長。東洋紡績の誘致に成功、南安曇農学校、豊科高等女学校の設置に尽力。	豊科（新田）

101	上條癸	1895～1974	岡谷病院長をつとめたのち、郷里に開業、信望があった。光地区の明科町への分村合併に奔走。	明科（上川手）
102	望月桂	1886～1975	画家。東京美術学校洋画科を卒業、読売新聞入社、犀川凡太郎の筆名で漫画を掲載など。	明科（中川手）

南安曇郡誌改定編纂会編『南安曇郡誌』（昭和 46 年発行）、東筑摩郡松本市・塩尻市郷土資料編纂会編『東筑摩郡松本市・塩尻市誌　別編　人名』（昭和 57 年発行）より（抜粋）

その他

小川大系（彫刻家）、熊井啓（映画監督）、青木祥二郎（観世流能楽師）、大谷重盛（工学博士・東北大学学長、電熱工学の専門家）、藤原保信（政治学者・早稲田大学政治経済学部教授、政治学博士）、清沢清志（詩人）、小林邦（画家）、宮下太吉(無政府主義者・明科の職工)など

2.安曇野市の公共施設で現在展示・保存中の安曇野市ゆかりの人物に関する主な資料

●豊科地域

1.安曇野市豊科郷土博物館
画家であり、自由民権運動に尽くした藤森桂谷や映画監督の熊井啓などの資料

2.田淵行男記念館
山岳写真家、高山蝶などの生態研究家であった田淵行男の作品、愛用の品、関連書籍等

3.飯沼飛行士記念館
飯沼正明に関する資料、当時の紙面やパネル等

●穂高地域

1.安曇野市穂高会館
相馬愛蔵・黒光に関する資料

2.安曇野市穂高図書館
松沢求策に関する資料

3.安曇野高橋節郎記念美術館
高橋節郎の漆芸作品、墨彩画、書など

4.鐘の鳴る丘集会所
NHK で放送され一世を風靡した「鐘の鳴る丘」。この舞台となった鐘の鳴る丘集会所には、引湯の歩みとドラマ鐘の鳴る丘に関する資料を展示

●三郷地域

1.貞享義民記念館
多田加助など貞享義民に関する資料、その他植原悦二郎に関する資料。

●堀金地域

1.臼井吉見記念館
臼井吉見の生原稿、色紙、書簡、愛用の品等

2.安曇野市堀金歴史民俗資料館
ガラ紡機発明者の臥雲辰致に関する資料

●明科地域

1.安曇野市明科歴史民俗資料館
宮下太吉と大逆事件に関する資料

付属資料３

安曇野市交流学習センター施設検討委員会設置要綱

平成 17 年 12 月 28 日
教育委員会告示第 27 号

（設置）
第１条　安曇野市の図書館を核とした交流学習センター施設の望ましいあり方を研究検討するため、安曇野市交流学習センター施設検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（任務）
第２条　委員会は、次の各号に掲げる事項について調査・研究を行い報告する。
（１）　安曇野市交流学習センター施設のあり方に関する事項
（２）　安曇野市交流学習センター施設の建設に関する事項
（３）その他目的達成に必要な事項
（組織）
第３条　委員会は、委員 20 人以内で組織する。
２　委員会の委員は、次の各号に掲げる者のうちから安曇野市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が委嘱する。
（１）　合併前の５町村の生涯学習施設建設検討委員会等の代表者
（２）　学識経験を有する者
（３）　公募により選考された委員
（４）行政機関の職員
（役員）
第４条　委員会に次の役員を置き、委員が互選する。
（１）　会長　１人
（２）　副会長　１人
（役員の任務）
第５条　役員の任務は、次のとおりとする。
（１）　会長は、委員会を代表し会務を総理する。
（２）　副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
（委員の任期）
第６条　委員の任期は、第２条に規定する任務が完了するまでとする。
（会議）
第７条　委員会は、会長が招集する。
（事務局）
第８条　委員会の事務局は、教育委員会社会教育課に置く。
(その他)
第９条　この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、会長が会議に諮り、別に定める。

付属資料４

安曇野市交流学習センター施設検討委員会

会　長	益子　光麿
副会長	草深　博視
委　員	丸山　隆雄
委　員	中島　博昭
委　員	細野　脩一
委　員	松尾　兼幸
委　員	中田　富子
委　員	山田　安子
委　員	藤原　房雄
委　員	関　　京子
委　員	巻山　由子
委　員	中嶋　　忍
委　員	細萱　由紀子
委　員	小口　正敏
委　員	赤沼　章子
委　員	曽根原　正一
委　員	三枝　由美
委　員	松田　元子
委　員	細川　博水
委　員	松枝　　功

付属資料 5

安曇野市交流学習センター施設検討委員会での検討経過

●第１回（平成 18 年 2 月 28 日　交流学習施設ひまわり）

・ 安曇野市交流学習センター施設検討委員会設置要綱の内容。
・ 会長益子光麿委員、副会長草深博視委員。
・ 今後の会議の開催時間、夜 7 時～9 時で。

●第２回（平成 18 年 3 月１4 日　交流学習施設ひまわり）

・ 視察は、3 月 29 日に安曇野市内図書館など。

●第３回（平成 18 年 3 月 29 日　市内図書館、松本、塩尻視察）

・ 中央図書館と地域図書館の役割分担が必要。図書館以外の関連機能の役割を考えていく必要がある。

●第４回（平成 18 年 4 月 12 日　豊科公民館講堂）

・ 安曇野市全体の図書館整備を考えるなかでいろいろと今まで出てきた意見等を集約し、事務局で新たな資料を作成し次回の会議で提案。

●第５回(平成 18 年 4 月 24 日　市内公共施設他)

・ 穂高総合支所、旧穂高町保健センター、穂高郷土資料館、鐘の鳴る丘集会所、穂高地域交流学習センター計画地、堀金総合支所、堀金公民館、堀金民俗資料館、臼井吉見文学館、豊科総合支所、豊科郷土博物館、豊科近代美術館、豊科地域交流学習センター計画地、三郷総合支所、文化公園、貞享義民記念館、三郷地域交流学習センター計画地の視察

●第６回（平成 18 年 5 月 12 日　穂高会館第２会議室）

・ 安曇野市の図書館整備計画の全体像を提案、検討する。
・ 全市の図書館サービスの中枢機関として、収集・保存・利用のあらゆる面で高いレベルを備え、本の貸出・返却だけでなく、訪れた誰もが長時間快適に過ごすことができ、かつ市民の誇りとなり、市の文化的シンボルとなりうる中央図書館(本館)を建設する。さらに本館のほかに、サービスエリアを設定した 4 つの地域図書館（分館）を整備し、全市的な図書館サービス網の構築を目指す。その際、特定の業務においては本館と分館の役割分担を行い、かつ本館と分館が互いに蔵書検索、相互貸借ができるようにする等、双方向性を持った市内図書館ネットワークを形成する。
・ サービス目標値

①サービス人口	100,000 人
②個人貸出登録率	30%
③個人登録者数	30,000 人
④総蔵書冊数	400,000 冊

・ 本館と分館の基本方針について

安曇野市全体として、約 40 万冊の蔵書が収蔵可能となるよう、以下のとおり本館と 4 つの分館を整備する。その際、本館については、約 20 万冊(開架 15 万冊、閉架 5 万冊)の蔵書が可能な施設規模を前提に、全市民が利用しやすく、かつゆとりをもって必要なスペースを確保し、また建物周辺に市民の憩いや交流のスペースの必要性も考慮し、市有地としてすでに確保されている安曇野市穂高、旧ワシントン・グランドに新たに建設することとする。

(1) 市内図書館の本館と分館の基本方針と重点収集資料について

	基本方針	重点収集資料
本　　館	・市民の誇りとなり、市の文化的シンボルとなりうる図書館 ・周辺環境に配慮し、機能的でデザイン的にも優れた図書館 ・長時間利用可能な図書館 ・市内図書館サービスの中枢機能	・市民全体の図書館として、調査研究・教養・レクリエーション・ビジネス・まちづくりなど幅広いニーズに対応しうる資料、情報 ・本館以外の分館等も支援しうる資料（市全体の体系的な資料収集を考慮）
分　　館	・本館の分館機能 ・利用者が、分館の蔵書を自由に手にとって見ることができる図書館 ・規模・地域性及び機能に応じた蔵書構成の図書館	・地域住民の図書館として、教養・レクリエーション・ビジネス・日常生活に役立つ資料、情報 ・地域の特性に応じた資料（特別コレクション）

(2) 市内図書館の本館と分館の配置

機能	サービスエリア	対象人口	整備場所	蔵書冊数		
				開架	閉架	合計
本館（中央図書館）	市内全域	約 100,000	穂高・旧ワシントングラウンド	150,000	50,000	200,000
分館（地域図書館）	豊科地域	約 28,000		60,000	6,000	66,000
	三郷地域	約 19,000		50,000	5,000	55,000
	堀金地域	約 10,000		35,000	3,000	38,000
	明科地域	約 10,000	「ひまわり」内に既設	38,000	3,000	41,000
			合　　計	333,000	67,000	400,000

●第 7 回（平成 18 年 5 月 29 日　交流学習施設ひまわり）

・ 移動図書館の廃止は概ねやむを得ないが、対応や代案は慎重にしっかりと考えて欲しい。

・ 交流学習センターは、様々な複合的な機能をもった施設とし、より機能的で、使いやすい施設にし

ていくための議論に集約していく。

●第８回(平成 18 年 6 月 14 日　　三郷公民館講堂)

・ 交流学習センターに計画されている複合機能の主なもの(顕彰館、ギャラリー、児童館)についての提案と検討。

●第９回(平成 18 年 6 月 29 日　　堀金総合支所別館)

・ 中央図書館へのアクセスについて検討。
・ 複合機能の中で、まず豊科の交流学習センターのギャラリーについて議論する。

●第 10 回(平成 18 年 7 月 14 日　　豊科近代美術館、豊科総合支所第１会議室)

・ 豊科の交流学習センターの建設は、豊科近代美術館を補完する整備を主とし、ここが安曇野市の基幹美術館として内外から認められる規模、内容のものとなるようにする。
・ 美術館に併設し図書館分館を整備し、施設建設にあたっては、現在の芝生をなるべく潰さないようにし、全体の景観を損なわないよう設計を見直す。

●第 11 回（平成 18 年 7 月 28 日　穂高会館第 2 会議室）

・ 穂高地域の交流学習センターは、中央図書館に、１安曇野の歴史、産業、自然など安曇野に関する幅広い資料を保存、学習、発表できる地域学習館(仮称)を併設する。
・ 地域学習館(仮称)で顕彰する人物等については、別に委員会等をつくり顕彰するかどうかなどについて検討する。

●第 12 回(平成 18 年 8 月 11 日　三郷公民館講堂)

・ 三郷地域の交流学習センターは、三郷中学校北側の取得済み用地に児童館と図書館分館を併設し建設する。
・ 新しい児童館は、規模について旧三郷村の計画を見直し、児童クラブ室やプレイルームの広さを充分確保する。

●第 13 回(平成 18 年 8 月 25 日　豊科公民館大会議室)

・ 今回の検討委員会の検討内容等により旧三町村の建設計画が大幅に変わることがあるが、具体的な設計変更等は市側が誠意をもって行う。
・ 交流学習センターに複合的に整備するホールについて検討する。

●第 14 回(平成 18 年 9 月 8 日　豊科公民館大会議室)

・ 豊科、穂高、三郷の交流学習センターには、その施設の機能に合った 200 人程度収容可能な多目的ホールを整備する。
・ 堀金の交流学習センターは、堀金総合支所や保育園など将来移転などで空いた公共施設を有効活用し、整備する。また、堀金体育館に約 500 人収容可能なサブアリーナがあるため、図書分館としてのホールは新たに整備しない。

・　次回は、中間報告書の内容について検討する。

●第 15 回(平成 18 年 9 月 25 日　交流学習施設ひまわり)
・　報告書案については、公聴会を 10 月 20 日（金）午後７時から穂高会館第 1･2 会議室、22 日（日）午後 4 時から豊科ふれあいホールで開催後、10 月中にまとめ、提出する。
・　具体的な設計作業に入っていく前に、茅野等県内南部の施設について 1 日かけて 10 月 18 日(水)視察する。

●第 16 回(平成 18 年 10 月 18 日　駒ヶ根高原美術館、茅野市民館、松本市美術館視察他)
・　各施設（特に市民ギャラリー、市民アトリエ、ホール）の概要、活用状況などを視察。
・　公聴会の進め方、資料等について確認。

●公聴会(第 1 回　平成 18 年 10 月 20 日　穂高会館第 1、第 2 会議室)
・　参加者約 30 人、検討委員 10 人参加

●公聴会(第 2 回　平成 18 年 10 月 22 日　豊科ふれあいホール)
・　参加者約 30 人、検討委員 7 人参加

●第 17 回(平成 18 年 11 月 7 日　豊科公民館大会議室)
・　報告書(案)の内容について
・　市長への報告書提出について